

1037

品名	数量	単位	送り方	備考
Ⅳ 八四号 真空管	一	本	航空	十二月三日
Ⅲ 四七号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅱ 八号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅰ 八号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅳ 八四号 真空管	一	本	航空	十二月三日
Ⅲ 四七号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅱ 八号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅰ 八号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅳ 八四号 真空管	一	本	航空	十二月三日
Ⅲ 四七号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅱ 八号 鉄	一	本	航空	十二月三日
Ⅰ 八号 鉄	一	本	航空	十二月三日

太行山脉肅清援蕩作戰集積兵器整理状況覽表

品目	分	單位	集積數	独混交付數	返納數	摘要
三八式銃實包	發	六七七、六四八	一〇〇〇、〇〇〇	五七六、八四八		
九三式重機関銃普通實包	〃	二八七、六〇〇	六、〇〇〇	二八三、六〇〇		
九二式曳火手榴彈	〃	二八六八	一、〇八〇	一、七八八		
八式重擲彈筒八九式榴彈	〃	六、八七一	二〇〇	六、六七一		
九三式步兵砲榴彈々藥筒	〃	一、九九七	二〇〇	一、七九七		
三一式山砲榴彈々藥筒	〃	一、五八八		一、五八八		
榴彈々藥筒	〃	二、〇四二		二、一四二		
榴散彈々藥筒	〃	一、二二〇		二、二二〇		
歩彈々藥筒	〃	四〇		四〇		
筒	〃	一九五		一九五		
試製發射機發煙筒	〃	二〇	二〇	／		
九二式機関銃實包	〃	二、〇〇〇		二、〇〇〇		

八十八歳 齋信館	八十八歳 明徳館	八十八歳 明徳館	八十八歳 明徳館	八十八歳 明徳館
	(野山加)	(櫛白)	(野山加)	(櫛白)
々	々	々	々	々
六六八一	三二〇	三三〇	一七二〇	三〇九六
二〇〇				二〇〇
六六八一	三二〇	三三〇	一七二〇	二八九六

別紙第九其三

大行山脈肅清投蕩作戰集積兵器整理状況一覽表(武器)

品名	分単位集積数		退納数		摘要
	単位	集積数	単位	退納数	
筒投擲機					

別紙第九五五

大行山脈肅清後、蕩作戦集積兵器整理状況一覽表(燃料)

品名	分単位集積数	油混=称交付数	返納数	摘要
航空用揮發油(一八五)	一〇		一〇	
全 (一八五)	五		三	
自動車用揮發油(一八五)	四五九	八一	三七八	
冬期用モビール (一八五)	一一	一一	〇	
ヒマシ油 (一八五)	五		五	
カリセリン (五五五)	一一		一一	
グリース (一八五)	二〇	一一	九	
モビール (一八五)	一四〇	六	一三四	
キヤード (一八五)	五	一〇	二一	
空 罐 (一八五)	一〇九		一〇九	
〃 (五五五)	四		四	
〃 (一八五)	一五		一五	

1041

大行山脈肅清後遺作戦軍積、兵器整理状況一覽表			
品名	正	分	単位
土	有刺鉄線	八番鉄線	土囊
枚	一〇、〇六〇	一〇	一〇、〇六〇
独混ニ交付数	一七	一七	一〇、〇六〇
正納数	九〇、六〇		
摘			
要			

1043

別紙十九其五

大行山脉肅清援揚作戦集積兵器整理状況一覽表

品目	区	分	単位	集積数	他混ニ交付数	返納数	摘	出
耐寒用スピンドル油			缶	三四	三四			
スピンドル油			リ	三六	三六			
腔中油			リ	九	九			
ベンゼン油			リ	二	二			
ホイル油			リ	四		四		
革油 甲			リ	一五五	一五五			
防蹠脂			リ	一二	一二			
ワセリン			リ	四	四			
ペトロラタム			リ	$\frac{3}{5}$	$\frac{3}{5}$			
晒木綿			疋	四四〇	四四〇			
截断布			リ	四〇	四〇			
雑巾			枚	三七五	三七五			

1044

モ ビ ー ル	グ リ ー ス	ダイナマイト用、グリセリン	グ リ セ リ ン	カ ー バ イ ト	全 三 號	全 二 號	全 一 號	布 鍍 口 號	礮 砂
々	々	々	々	金	／＼	／＼	／＼	枚	斤
=	=	三	—	—	一 ロ ロ	一 ロ ロ	一 ロ ロ	一 ロ ロ	ハ ロ
				—	一 ロ ロ	一 ロ ロ	一 ロ ロ	一 ロ ロ	ハ ロ
=	=	三	—	.					

品名	目	分	請求数	備	注	要
三八式銃書包	銃用	八八四〇〇〇				
九二式重機銃銃	銃用	四〇〇〇〇〇				
九一式曳火手榴彈	銃用	四〇〇〇〇				
八九式重榴彈榴彈	銃用	一四〇〇〇				
九二式步兵榴彈々々筒	銃用	三〇〇〇				
四一式山砲榴彈々々筒	銃用	五〇〇				
三式山砲榴彈々々筒	銃用	二〇〇〇				
九四式山砲榴彈々々筒	銃用	三〇〇〇				
同 榴彈々々筒	銃用	一〇〇〇				
同 あんぐら筒	銃用	一六〇〇				
八八式瞬發信管(榴白)	銃用	五〇〇〇				
八八式瞬發信管(野山加)	銃用	三三〇〇				
八八式小瞬發信管	銃用	一四〇〇〇				
あ 筒	銃用	一四〇〇				
試製瞬發煙筒	銃用	五〇〇				
方形黃色	銃用	一五〇〇				
十年式 雷 管	銃用	一三〇〇				
九三式小火焰射機用 管	銃用	一〇〇〇				
機導火索(米)	銃用	一三〇〇				
試製結火管	銃用	二〇〇				
同 結火機寸	銃用	三〇〇				
同 同補助管	銃用	二〇〇				
小粒 藥 (k)	銃用	五四				

第七

經

理

一、ラ 補給作戦業務其後ノ状況

1. 補給ノ状況

第三期作戦間所要ノ糧秣ハ各部隊ニ對シ概ネ七日分ヲ交付拂行セシメテ山地戰給養ノ確保ヲ期シ部隊行動間ニ於ケル十二月二日以後ノ所要ハ軍輜重隊ニヨリ涿源ヨリ補給セリ、

此ノ外軍野戰倉庫ハ作戦終了後ニ於ケル部隊ノ涿源集結及將來涿源ニ越冬スヘキ部隊ノ給養ヲ圓滑ナラシムベク概ネ六〇〇馬三〇〇〇二十日分ヲ標準トシテ集積シ過剩品若干ハ宣化ニ後送シ以テ爾後ノ補給ハ順調ニ實施スルヲ得タリ

2. 要員並ニ補給機關撤収ノ状況

作戦其ノ局ニ近ヅクヤ走馬關鎮軍野戰倉庫田邊所ニ於ケル補給

ヲ概ネ十一月末迄ニ完了十二月二日軍自動車隊ニ依ル延七七車
輛ヲ以テ人員薪材共涿源ニ撤收十二月七日作戦終了ト共ニ涿源
軍野戦倉庫ハ集積軍需品及倉庫施設共獨立混成第二旅團ニ引繼
ヲ完了出動要員中主計將校一、下士官一、ヲ倉庫殘務整理ノ目
的ヲ以テ三日間殘置其他ハ全部引揚タリ

二、騎兵集團ニ對スル業務援助ノ狀況

騎兵集團正面ニ有力ナル敵ノ來襲ヲ受クルヤ集團司令部ニ於ケル
經理編成弱少ノ現況ニ鑑ミ當部ヨリ主計准尉、主計軍曹各一ヲ二
十二日急據同部ニ派遣シ其ノ援助ニ任ゼシメタルモ戰況ノ推移漸
々緩慢トナリタルヲ以テ二十七日迄ヲ歸還セシメタリ

三、主計事項

1. 算

本月末豫算使用認可総額

八三〇、一七九、七五〇

本月増額セラレタルモノ

四三〇、〇〇〇、〇〇〇

本月減額セラレタルモノ

二四四、〇〇〇、〇〇〇

本月増額申請セル分

五八一、四三〇、〇〇〇

本月各部隊ニ増額

一、三五六、五九〇

本月各部隊ヨリ減額

三九三、六二八、一〇〇

2. 軍資金ノ出納

本月前渡資金領收額

一、〇一、四〇〇、〇〇〇

本月ノ移算拂

五〇〇、〇〇〇、〇〇〇

各部隊へ前渡資金交付

八七、一七三、四六九、〇

圓

圓

部隊改編ニ伴フ資金返納

八七三九三〇〇

經理部分任官直接拂

四八七三三四四一〇

本月中置資金ノ受拂状況左ノ如シ

區分	受		高	
	前月越高	本月受高	計	拂高
現金	一四七五八二五	三六〇七一四二五	三八五、四七三三八	七五、五一三六〇
預金	二〇一、〇三九二二	一、〇九六、〇八七三六	三、一〇六、一二六三八	一、六三一、五五五〇
計	二〇三、四七九七二七	一、四六六、八〇二五九	三、四九〇、六〇二六八	一、七八三、〇六九六〇

3. 決算證明

本月中九月分ノ下檢登ヲ了シ北支那方面軍宛提出セリ内譯左ノ

如シ

臨時軍事費支拂額

一、四三一、八六八、一九〇

臨時軍事費同收額

八三〇、二二〇

々 恤兵金

(一) 十二月中恤兵金トシテ寄附申出ニ依リ受理セルモノ八件合計
八九九圓也

(二) 本月軍經理部支出金額ハ軍人ホーム設備費外三件計六、四〇
六圓也

(三) 軍經理部恤兵金總保有高三七、八三三、九九ナリ

又 義家口軍酒保金ノ受拂状況左ノ如シ

前月ヨリ越高	本月受高	計	本月支拂高	翌月へ越高
八、四四〇、一〇〇	三、一四〇、六八八	六、〇〇七、六八八	五、七二一、八五	五、四四三、六三〇

同 夜糧等項

糧秣

(一) 稟釋補給狀況及干草補給量ニ就テ

本年度馬糧用稟釋其他代用品ハ當地破全般ニ亘ル雜穀類ノ採掘
 以上ノ凶作ノタメ各兵團共蒐集ニ相當困難ヲ感シ特ニ騎兵機關
 ニ於テ不足ノ現況ニアリ之カ補填トシテ畿ニ察南地區ヨリ四二
 ○万疋ヲ該集團方面ニ送付スルコトニ計畫中ノ處近ク實施セラ
 ルベキ機關編制改正ノ結果相當數ノ馬匹減少ナルヲ以テ四二〇
 万疋中二〇〇万疋ヲ限度トシ第六師團ニ轉用セシムルコト
 トシ之カ不足ハ若干緩和シ得ル見込立チ一方政府ヲシテ供出セ
 シメツツアリタル干草ハ漸ク當量ノ需要ヲ充足シテ稍々餘裕ヲ
 生ズベキ數量ニ達シタルヲ以テ一月一日以降一頭當日量四疋ヲ

補給スルコトセリ

(二) 粟稗壓搾機ノ現地製作ニ就テ

北支那野戰貨物廠大同支廠ヲシテ粟稗壓搾機十台ヲ現地製作スル如ク指示セリ

(三) 在住邦人ニ對スル精米貸與ニ就テ

先般來軍作戦地域内在留邦人所要ノ精米ハ追送意ノ如クナラス現地當局ハ萬策ヲ講シ節米ヲ勵行之ニ對シ重ニ於テモ極力援助ヲ惜マス唯軍需品ノ繰替使用ハ將來ノ作戦及異常急變ノ場合ヲ慮リ之ヲ實施セザルノ方針ヲ堅持シアリタル處本月中旬旬ニ至リ其ノ窮狀能ハザル實情ナリシヲ以テ已ムヲ得ス大同ヘ三五〇梱庫和ヘ六〇梱ヲ一時貸與スルコトニ依リ焦眉ノ急

ヲ宛カレンメタリ

(四) 糧秣保有高ニ就テ

本月末ニ於ケル當軍糧秣ノ保有高別紙ノ如シ

2. 被服

(一) 保續用被服ニ就テ

蒙經衣第一、四一四號ヲ以テ請給請求セシ保續用被服品ハ携帶天幕一部ノ外其ノ全部ヲ受領セリ

(二) 初年兵用被服ニ就テ

十二月入營初年兵用被服ハ大体補給ヲ完了シ差向當面ノ所要ニ立應ナカラシメタリ

尙一月入營者ノ分モ置段手帳及認識票其他一部ヲ除キ大部分

現品到着シアルヲ以テ數日中ニ補給ヲ完了シ得ル見込ナリ

(三) 被服移動修理班ノ運用ニ就テ

騎兵集團ノ要請ニ基キ大同貨物支廠被服移動修理班ヲ十二月十一日ヨリ二十六日迄該集團ニ派遣縫工品二、五〇〇點靴工品一、六〇〇點ノ修理成績ヲ揚ゲタリ

(四) 部隊用縫靴工具ニ就テ

縫ニ方宜經衣第二、六二七號ヲ以テ補給指示アリタル部隊用縫靴工具ハ一部現品到着セリ

3. 物品關係

(一) 永久建築備付陣營具ニ就テ

大同、厚和、包頭ノ永久建築工事ハ一部竣功シタルヲ以テ差

向必要ナル初度備付障營具ヲ補給セリ

(二) 初年兵用教育圖書補給ニ就テ

初年兵入隊ニ伴フ教育用圖書ハ逐次追送セラレツツアリテ到着次第其ノ都度各部隊ニ補給シツツアリ

(三) 木炭ノ輸送ニ就テ

藥作命丙第一四七號ニ基ク第一區ヘ補給ノ木炭六〇〇應ハ十二月二十七日ヲ以テ輸送完了セリ

(四) 石炭輸送ノ狀況

一月分軍用炭ノ輸送ハ左記ノ通實施スル如ク政府ニ指示セリ

地區内 九、六〇〇應

地區外 二三、三〇〇應

合

計

三二、九〇〇

(五) 梱包材料請求ニ就テ

十五年度當軍ニ於ケル現地物資利用ニ基ク所要薬工品ハ方面
軍ノ照會ニ依リ左記ノ通要求セリ

空 叭

六六一、〇〇〇枚

薬 繩

七四一、〇〇〇疋

薬 薙

一五、〇〇〇枚

(六) 麻綱ノ利用價值ニ就テ

内地ニ於ケル鐵線補給困難ノ現況ニ鑑ミ現地ニ於テ調辦容易
ナル麻綱其ノ他適當ナル綱ヲ以テ干草、粟稈等ノ梱包ニ代用
スルコト、シ利用ノ可否ヲ第二十六師團、大同貨物支廠ヲシ

テ研究セシメアリ

々軍需輕工業原材料調達事項

(一) 現地調辨可能被服品數量ニ就テ

昭和十五年度當置ニ於ケル被服品ノ現地調辨可能數量ニ就キ
 方面置ヨリ照會アリタルヲ以テ混綿毛布（五〇％混綿）五四
 〇〇〇枚ハ可能ナル旨回答シ其他ノ被服品ハ加工工場等末々
 設立途上ニアリテ利用シ能ハサル實情ナリ

尙方置作命丙第五三六號指令ニ基ク混綿毛布二〇、〇〇〇枚
 ハ厚和毛織廠ニ於テ工場設備ノ改善、技術ノ向上最近急シ
 來年一月上旬迄ニ製作完了シ更ニ指令期限三月末迄ニ約一一、
 七〇〇枚製作可能ナル趣ナルヲ以テ之カ調達方ニ付方面軍ニ

照會中ノ處ハ、〇〇〇枚限増加調辦スル如ク指示アリタリ

(二) 原材料ノ調辦実績

十一月末迄ノ調辦実績別紙第二ノ如シ

(三) 物々交換ノ状況

(1) 第十一軍ニ於テハ最近磚茶一二、五〇〇箱ヲ取得當軍ノ所

要量ヲ照會シ來リタルヲ以テ本年十月請求濟ノ六、五〇〇

箱トハ別個ニ更ニ八、五〇〇箱ノ交付方ヲ要求セリ

(2) 十一月中大同貨物交換廠ニ於テ實施セル民需用物資ノ供給狀

況ハ拂下總價格二二八、八一—圓七〇〇内羊毛交換代金一

三九、八六一、四九〇ナリ

五 恤兵品事項

(一) 駐蹕軍司令部受理恤兵品

菓子袋 二、〇〇〇袋

糯米 五斗七升俵二〇捆

慰問袋 一九五個

2BS
へ交付

在張部隊へ

線下一般へ

(二) 方面軍ヨリ配與

正月用慰問袋

繪葉書

從軍手帳

讀物類

四七、〇〇〇

四五、〇〇〇

四五、〇〇〇

一六、六九一

線下一般へ

6. 酒保事項

十一月末現在高

一八七、九〇〇圓

五 營繕費額

ノ工事費支拂促進ニ就テ

直ノ工事請負業者ハ該シテ内地滿洲ノ夫ニ比シ比較的營繕費力ニ乏シク特ニ日本内地及滿洲ノ爲營繕ノ強化ニ伴ヒ現場小費金ヲ以テ營業ヲ繼續シアルモ、多ク直ハ從來工事代金支拂ノ状

十二月配當受高	一一二、九〇〇圓
十二月組營高	八、二〇〇圓
十二月現地調停高	三、二〇〇圓
計	一二二、二〇〇圓
十二月各段へ配當高	一六六、三〇〇圓
差引	一四四、九〇〇圓

2. 本建築

進ニ關シテハ格段ノ願望ヲ拂ヒアル處ナルモ本月ハ年末モ差迫
 リ業者ノ金融決済上工事代金ノ支拂ヲ希望スルモノ多キヲ以テ
 シ之カ支拂促進ニ關シテハ格段方頭並經理部迄ヨリ注意ノ次第
 モアリ特ニ萬全ヲ期シテ年内完成ノ工事ハ勿論年度繼續工事ニ
 對シテハ贈賞者ヲ指導奮勵シテ既成部分拂ヲ實施シ各兵團ニ對
 シテモ迅速適切ナル處置ヲナス如ク指導セリ

(一) 本月末ニ於ケル工事ノ進捗状況ハ張家口四分、大同六分、厚
 和、包頭各三分ノ工程ニシテ一宮竣工セルモノニ對シテハ初
 年兵收容ニ充當シ部分使用ノ已ムナキモノアリ

(二) 前月末ニ資材其他ノ準備ヲ了セル大同ノ鑿井ハ本月掘鑿ヲ開

始、順調ニ續工中ニシテ歩兵隊構内ノ如キハ八四米ヲ以テ出水日量約八百石且水質良好ナリ

(三)張家口上水道工事ハ中間給水場迄ノ通水本月完了其他全工事ハ略々完了來春ヲ待チ試験通水ノ運びニ在リ

3. 假建築

(一)各地ニ實施シアリタル假建築ハ大部分本月迄ニ竣功シ各兵團共初年兵收容ノ爲ニハ差向立障ナシ

(二)大同、厚和、包頭ノ假給水施設ハ全ク竣功、大同ヲ除キ通水成績良好ナリ

4. 工事ノ起工竣功狀況

本月中軍經理部ニ於テ契約起工セルモノ四廉計一二、一〇六圓

1064

ニシテ本月竣功セルモノ八廉一〇一、五三一圓九〇〇ナリ

1065

別紙第

品目	集積地	分	大	同	張	家	口	個	頭	合	計
乾パン	乾	パン	六〇〇	一	一〇一	四	四九	二	二五〇		
壓搾口糧	壓	搾口糧	三四	八	五	五〇			六六九		
携帶制式品	携	帶制式品	六〇	八	二				三四二		
鐵器代用品	鐵	器代用品		九	一	四	一		六三八		
携帶食鹽	携	帶食鹽	九〇	二	七六	六	九	三	三五		
携帶燃料	携	帶燃料	三四	九	三三	八			二七五		
主精米	主	精米	三八五〇	一	六	八	八七	五	六二三		
食精麥	食	精麥	三六六八	二	七三	一	一七	七	五八		
尋牛肉	尋	牛肉	八六	六	二	四			七二		

楓林保有勸業見表(單位師團級)

昭和十四年十二月卅一日現在
部隊名

食								副		
漬物類	調味用干魚	鹽	砂糖	油粉	醬生	噌粉	味噌生	乾物類(含野菜)	詰鹽干魚	罐魚肉
五五三八	二五四〇	二〇四九二	二九一九	八〇〇	二七六六	九七九	一六三六	三〇九四	一七三六	五三五
八〇六	一七三一	一三九三	三五四		一三九五	二九三六	五八五	二六七六	三五〇	六三八
七〇六	一三八	三三六〇	一七七一	六〇〇	四六七	三五八	四五〇	六〇六	四七一	七六〇
七五〇	三八〇九	二五三四五	四五四九	一四〇〇	四六二八	四一七三	二六七一	六三六六	二四五七	一四三三

106T

茶	榮 養 食	清 酒	清 涼 ど ー る	飲料 サイ ダー	甘 味 品	煙 草	馬 大 (燕) 麥	萬 葉	干 草	ホ ー ー 末
二〇八五二	二〇八五二	三三九	三九三	一三八六	三二九	三一	一八九八	一九一五	三一三	一九五〇
七々三七	三三五	三八一	九二	四五	七二	六二	一二	九六	五七九	三四五〇
七々七二	三三〇	二四	七一	二二	七一	七九	二八	一五	一〇八	二二五〇
三三六六一	三六五	四四四	五五六	一四五三	八七二	三五五二	一六三八	二二二六	六〇〇	七六五〇

890T

木	糧 馬
炭	鹽
二 一 三	四 八 七 五
七 三 三	二 五 二 〇
一 五 〇 九	五 〇 〇
二 五 五	七 八 九 五

690T

昭和十四年十一月分軍需輕工業原材料調辨實績表

駐蒙軍經理部

別紙第二

品 目	單 位	調 指 數 辨 達 量	本 月 分		累 計	
			購 入 數	金 額	總 購 入 數	總 金 額
線 麻	斤	3000000	140.572.25	53410.994	2554.872.25	835.324.904
羊 毛	疋	10470.000	517.11937	484.703.330	6.772.277.925	7.642.136.360
牛 皮	乾 枚	8000	32	260.200	540	4.687.240
馬 皮	乾 "	5.000	607	3448.400	3.709	16.733.550
緬 羊 毛 皮	乾 "	570.000	5.952	10.861.600	79.732	148.382.700
	鞣 "		31.525	90.785.500	148.221	570.750.360
山 羊 毛 皮	乾 "	570.000	7.503	13.732.950	60.918	110.626.420
	鞣 "		15.027	26.435.520	83.817	215.988.470
仔 緬 羊 毛 皮	乾 "	240.000	24.650	26.133.350	243.858	305.098.000
	鞣 "		67.444	68.391.120	211.194	221.742.720
仔 山 羊 毛 皮	乾 "	240.000	28.477	23.481.950	151.144	128.820.620
	鞣 "				99.894	93.994.050
犬 毛 皮	乾 "	20.000	5.456	13.891.650	6.566	15.887.650
	鞣 "				25.341	59.623.300

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

1020

第八

衛

生

一、衛生機關業務ノ概要

(一) 軍醫部業務

1. 病院長高級醫官會議

二十日管内陸軍病院院長高級醫官等ヲ召集病院院長高級醫官會議ヲ開催ス席上別紙第一ノ如ク參謀長指示セラルト共ニ軍醫部長別紙第二第三ノ如ク指示シ注意ヲ述ヘ軍醫生勤務ノ刷新向上ヲ圖レリ

出席者及會議次第別紙第四第五ノ如シ

2. 前項會議ニ引續キ會議出席者並ニ在張部隊附屬官ノ參集ヲ求メ

研究會ヲ開キ衛生部將校ノ教育指導ニ任ス

講演者及研究會次第別紙第六ノ如シ

3. 初年兵衛生狀況視察及衛生業務視察並指導

軍醫部長ハ左記日程ニ依リ第二十六師團部隊初年兵衛生狀況
視察並騎兵集團部隊及厚和陸軍病(分)院ノ衛生業務視察並
指導ヲ實施ス

左記

二七日 騎兵集團司令部
騎兵下士官候補者隊

二八日 厚和陸軍病院

二九日 獨立歩兵第十三聯隊
獨立野砲兵第十一聯隊第二大隊

三十日 厚和陸軍病院包頭分院

4. 兵保育要領、保護兵取扱要領、結核性疾患豫防要領前定、軍

現下ノ狀況ニ鑑ミ更ニ將來ニ於ケル對峙的軍備擴充ニ伴フ兵
體力ノ低下ニ對シ人的戰力ノ保持増強ヲ完成センカ爲兵保
育要領、保護兵取扱要領並給養性疾患豫防要領ヲ別紙第七第
八第九ノ如ク制定シ各部隊ニ施行セシメラル

又昭和十五年陸軍軍醫學校甲種學生選拔試験ヲ四、五兩日當
軍司令部ニ於テ施行セラレ軍醫部長之カ監督ニ任ス

又騎兵集團ヨリ安北ニ治療所開設方申請アリタルニ據リ認可セ
シメラル

又昭和十四年度徵集現役入隊兵ニ對スル眼鏡支給手續ニ關シ左
記ノ如ク各兵團陸軍病院ニ通牒ス

左記

昭和十四年度徴集現役入隊兵ニ對シ昭和十三年十一月八日陸
普第六八六五號ニ基キ眼鏡ヲ支給スヘキニ付十二月入營スル
部隊ニ在リテハ一月二十日迄一月入營スル部隊ニ在リテハ二
月二十日迄ニ眼鏡屬万及連名簿四通ヲ添ヘ申請セラル度

8. 關野大尉ハ昭和十四年度徴集新兵第一旅團集合地身體検査醫
官ヲ命セラレ二十六日出發ス

9. 二十日傳作義重ノ主刀包頭附近ニ來襲シ激戦ヲ繰リテラル
ニ至リ作戰部隊ノ傷者多發ト厚和陸軍病院ノ收容患者ノ輻輳
ヲ顧慮シ衛生部員ノ増援救護ニ際シ案作命丙第二三七號ヲ以
テ左記ノ如ク處置セラル

左記

(1) 第二十六師團長ハ左記部隊及人員ヲ選ニ包頭ニ派遣シ騎兵
集團長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

左記

兵站自動車第六十三中隊

担架中隊

軍醫

衛生下士官

衛生兵

一

三

四

二〇

(2) 張家口、大同陸軍病院長ハ各々軍醫一衛生下士官一衛生兵
五ヲ包頭ニ派遣シ厚和陸軍病院長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

10. 二十五日蒙作命丙第二三七號ニ依リ騎兵集團ニ配屬中ノ第二

十六師團衛生隊ハ左記人員ヲ除クノ外原所屬ニ復歸セシムル
如ク處置セラル

左記

軍 醫

二

衛生下士官

二

衛生兵

一〇

〃大行山脈地帯ニ於ケル軍ノ肅正討伐ハ所期ノ目的ヲ達成シタ
ルニ依リ七日襲作命號第二四號ヲ以テ作戰部隊ノ編組ヲ解カ
レ各々原所屬ニ復歸ヲ命セラルト共ニ軍戰團司令所モ撤去セ
ラレ同司令所ニ在リテ作戰部隊ノ衛生統理ニ任シ在リシ黒江
少佐以下歸還ス

(二) 其他衛生機關

各國軍病院野戰衛生機關ノ配置ハ前月ト變動ナキモ一ラ號作戰部隊ニ附隨出動シアリシ陸軍病院衛生隊、野戰病院、大同貨物支廠ノ一部人員ハ各々原所屬ニ復歸セリ

月末現在衛生機關ノ配置要圖附表第一ノ如シ

一 患者ニ關スル事項

ノ 部隊患者

月間判明セル新患總數一、七八九名ニシテ中戰死二一〇戰傷五〇七戰病一、二八二トス

二 入院患者

月間判明セル新患總數三〇四名ニシテ中戰傷二〇戰病一八ト

外傷不慮	花柳病	肺氣	胸膜炎	胸部結核性疾患	赤痢	パラチフス	腸チフス	傳染病	新患戰病中主要疾患左ノ如シ	ス
二三	二七	六	一二	一三		二	一一	一三		

3. 一ノ三號作戦間發生セル戦（死）傷者ノ狀況左ノ如シ

將校 准士官以下 計

戦 死

1

1

1

戦 傷

1

6

7

4. 包頭附近冬季反撃作戦間發生セル戦（死）傷者ノ狀況左ノ如シ

將校 准士官以下 計

戦 死

11

196

207

戦 傷

30

464

494

5. 月末現在各師軍病（分）院野戦衛生機關患者收容ノ狀況附表第

二ノ如シ

三、患者轉送ニ關スル事項

「多龍作戰間冰源野城病院患者後送ノ狀況左ノ如シ

日 別	後送區分		飛行機 輸送	地上輸送 蔚縣	合計	摘要
	北	京				
十一月末迄ノ計	八六	一一	九七	六九	一六六	
一						
二				三	三	
三	二		二		二	
四						
五	二				二	
六	一				一	
計	九一	一一	一〇二	七二	一七四	

2. 包頭附近冬季反蒙作戰間厚和陸軍病院ノ收容患者輸送シ之カ後

送ノ爲張家口ニ待機中ノ患者改進黨二輛ヲ包頭ニ派遣ス
 厚和ハ大同間ノ轉送ニ使用ス
 日別後送状況左ノ如シ

日別	發送病院	收容病院	員數	摘	要
二六日	厚和陸軍病院	大同陸軍病院	一五		
二七日	・	・	四三		
二九日	包頭分院	・	二六		
計			八四		

3. 特設分院へノ轉送状況左ノ如シ

輸送日

後送元

發送病院

患者數

二日

北京特設分院

張家口陸軍病院

一〇名

七日 厚和陸軍病院 一名

三十日 大同陸軍病院 三名
厚和陸軍病院包頭分院 六名

補給生材料ニ關スル事項

大同實物支廠ニ於ケル月間補充補給ハ概ネ圓滑ニ實施サレツツ
アリ其ノ概況左ノ如シ

補充野戰實物本廠ヲ主トシ總點數 三七六點 梱數 四五八梱ナ
リ補給ハ補給部隊四部隊總點數 〇九五點 梱數 九三二梱ニ
シテ外ニ施療用及需品費支辨材料 一三點 二三梱ヲ補給シア

2 一月初年兵入隊期ヲ控ヘ新兵集團ニハ醫務運用衛生材料ノ備付
ナク初年兵入隊時諸檢査實施不可成ナル狀況ナルヲ依リ大同

貨物支廠保管ノ左記材料ヲ充當スルト共ニ各師軍病院ヨリ顯微
鏡各一具ヲ貸與セシム

左記

血液沈降速度計

一〇具

ツヘルクリン注射器

一四具

第三十六師團初年兵入隊時胸部精査用トシテ「レントゲン」
フィルム二〇打交付ス

第四十六師團衛生隊野戰病院ハ部隊ノ高度分散配置ニ伴フ患者
療養所ノ分散開設ハ現有衛生材料ノミニテハ不足ヲ來スヲ以テ
大同貨物支廠保管ノ材料ヲ充當附表第三ノ如ク増備方處置ス

昭和十四年徵集入隊兵接種用トシテ腸チフス等四種混合豫防接

種液三七〇〇人分ヲ北支那方面軍ヨリ交付ヲ受ケ左ノ通り交付
方處置ス

左記

獨立混成第二旅團

二、三五〇人分

騎兵集團

一、三三〇人分

6. 北支那方面軍ヨリ昭和十五年度療工勤務衛生兵教育期間中當軍

係有ノ左記材料ヲ北京陸軍病院ニ貸與方通牒アリタルニ依リ大

同陸軍病院所有材料ヲ送付スル如ク處置ス

左記

軍 械 用 電 動 式 一 具

研 磨 臺 磨 品 四〇年式 一 具

1084

1085

高級
病
院
醫
官
長

會
議
席
上
駐
蒙
軍
參
謀
長
指
示

別
紙
第
一

駐
蒙
軍
司
令
部
昭和十四年十二月二十日

駐蒙軍設置以來已ニ一年有半此間各駐屯地ノ非衛生的環境ヲ克服シ衛生業務ノ刷新向上ニ努メ概テ良好ナル成績ヲ擧ケタルハ欣快トスル所ナリ

惟フニ聖戰ノ前途尙遼遠ニシテ長期作戰ニ於ケル人的戰力ノ保持増強ハ諸官ノ活躍努力ニ俟ツコト大ナルモアリ宜シク其ノ重大ナル任務ヲ感得シ積極的勤務ニ邁進シ作戰遂行ニ遺憾ナキヲ期センコトヲ望ム以下二、三所見ヲ開示セントス

一、軍紀風紀ノ振作

軍紀風紀ノ肅正振作ニ關シテハ屢々上司ヨリ訓示セラレシ所ニシテ諸官亦常ニ留意シアルヲ認ムルモ駐軍久シヤニ亘ルニ從ヒ精神弛緩シ出征當時ノ緊張セル氣慨ハ漸次消磨シ易キ傾向アルヲ以テ監督指